

豊田市博物館
開館1周年記念
岸田吟香没後120年

岸田吟香と 岸田劉生

— 近代、それは東洋にあり —

4.26 ²⁰²⁵ SAT → 6.15 SUN

開館時間 | 午前10時～午後5時30分(入場は午後5時まで) 休館日 | 月曜日(ただし4月28日・5月5日は開館)

観覧料 | 一般1,000円[800円]/高校生・大学生800円[600円]/中学生以下無料

※[]内は20名以上の団体料金 ※観覧料の詳細及び減免、割引等については博物館ホームページをご確認ください。

主催 | 豊田市博物館 共催 | 中日新聞社

H.P



Instagram



愛知県豊田市小坂本町5丁目80番地
TEL: 0565-85-0900 [代]
<https://hakubutsukan.city.toyota.aichi.jp>



TOYOTA CITY MUSEUM
豊田市博物館



良辰美景春
逍遥自樂臨酒
居酒

岸田吟香「練習四言古詩「良辰美景」(部分) 豊田市博物館

岸田劉生「室女区 麗子立像」 神奈川県立近代美術館



日本初の和英辞典『和英語林集成』の編さんに携わり、日菓「精錡水」を製造・販売した事業家であり、ジャーナリストの先駆けでもあった岸田吟香（1833～1905）。吟香の子で、「麗子像」などでおなじみの洋画家・岸田劉生（1891～1929）。

吟香は、西洋の文化や技術を普及させる一方、中国（清）に渡り、当時最先端の書を日本にもたらしました。劉生は、西洋絵画に学んだ精緻で写実的な表現を追究する一方、中国の宋・元時代の絵画に影響を受け、画風を大きく展開させていきました。

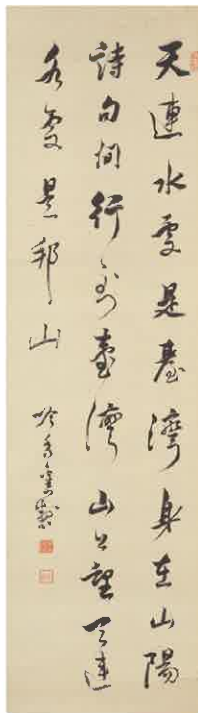
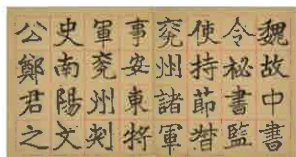
本展では、吟香・劉生父子が遺した作品を中心に展示し、吟香が影響を受けた清の書や近代日本の著名な書を紹介するとともに、『麗子肖像（麗子五歳之像）』をはじめとした劉生の代表作や日本画から、劉生の画風の展開を紹介します。

近代、それは東洋にあり。今回の展覧会は、日本の近代化を「西洋化」としてのみ捉える見方に再考の光を当てるものです。自らが信じる美のモデルを東洋の「現在」と「宋・元」に見出した岸田父子の挑戦をご覧ください。

豊田市博物館開館1周年記念 岸田吟香没後120年

岸田吟香と岸田劉生

— 近代、それは東洋にあり —



主なイベント

① 講演会「岸田劉生の文人趣味」

日時 | 2025年4月26日(土) 午後2時～午後3時30分

講師 | 梶岡秀一氏 (京都国立近代美術館学芸課長)

会場 | 豊田市博物館セミナールーム (定員100名)

② 講演会「岸田吟香に宛てた日下部鳴鶴の手紙と幕末の三筆の書」

日時 | 2025年5月25日(日) 午後2時～午後3時30分

講師 | 増田孝氏 (愛知東邦大学客員教授、テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」鑑定士)

会場 | 豊田市博物館セミナールーム (定員100名)

お申込み

①・②とも、3月3日(月)から4月7日(月)までに、あいち電子申請・届出システムもしくは往復はがきでお申込みください(参加無料)。詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

1. 岸田劉生《麗子肖像(麗子五歳之像)》東京国立近代美術館 2. 岸田劉生《白狗図》福島県立美術館 3. 潘存《臨鄭文公碑》公益財団法人書壇院 4. 副島種臣《積翠堂額》菊屋旅館 5. 岸田吟香《行書七言絶句》成田山書道美術館 6. 岸田劉生《厨房小寒》京都国立近代美術館
※会期中展示替えを行います。詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

併催・豊田市博物館コレクション展示

藤井達吉と小原和紙工芸 4月26日(土)～5月25日(日)

特別公開 重要文化財 織田信長像と長篠・長久手合戦図屏風 5月31日(土)～6月15日(日)

美術館・民芸館のご案内

豊田市美術館 「玉山拓郎:FLOOR」

「高橋節郎館リニューアルオープン記念 高橋節郎展」

1月18日(土)～5月18日(日)

「生誕120年 黒田辰秋展」

3月15日(土)～5月18日(日)

豊田市民芸館 「おいしい民衆一食のうつわ展」

1月11日(土)～5月25日(日)



[名鉄三河線 豊田市駅・愛知環状鉄道 新豊田駅より] 徒歩15分
[名鉄三河線 上挙母駅・愛知環状鉄道 新上挙母駅より] 徒歩25分
[自動車ご利用の場合] 東名高速道路 豊田ICより約15分
東海環状自動車道 豊田松平ICより約15分
伊勢湾岸自動車道 豊田東ICより約20分 駐車場:150台